



素多作
假名讀八丈傳

六

Gōkan: (No. 010
Kanayomi Hakke
Oart 2. Book 6

^ 13
3701
6





加太

大田

印



あねを
ハ大傳
六人

る永喜水

一勇妙園芳

萬飾
萬斗

印

門 へ 13
號 3701
卷 6





余。這策子小筆を採りて。縮述する。と既小六篇節婦濱路が傳よ及ひく。一
息と抄へく。此婦や。虚中にあるといふも。人情の赴く処。勸懲せられる。さう。
玄妙あり。とこの人さう。實小書中の貫目たる。就中信乃と哀別の條の下小
原傳。吁乎あるも。その未通女のみ。鶯鶯の象を累ね。連理の枕。並
へ。こゝて。その情百年の夫婦小勝たり。余も小信乃の情小引かれて。その心を
動さ。さう。その情は。従ふ。男女別ある。赴を。さう。夫色界。迷津に賢不
肖無差別。之江湖許多の少年輩。下さびこの岸小臨て。瀕ざる。とある。の少年。
然。う。波。今。その義夫節婦あり。濱路が恋慕を。樂。と。と。淫。せん。と。小。あ
り。ま。信。乃。が。嗟。嘆。へ。悲。を。傷。ら。ま。下。邊。と。曲。叟。が。自。評。も。ま。ま。妙。え。余。の。後
今。這。假。字。読。の。只。捷。經。預。肯。と。ま。さ。れ。バ。意。味。深。長。の。境。小。い。く。と。ま。
譬。言。バ。こ。の。書。を。閱。一。地。の。い。く。後。小。原。傳。を。読。め。る。咄。一。小。原。と。狂。言。
成。る。く。見。る。と。ど。く。さ。ん。う。

嘉永二年酉孟春發兌

傳一編



月
中
は

横
堀
中
在
村

大
飼
見
八
信
道



雲
雨
中
の
標
之
好

大
道
山
節
忠
與

路
濱
出
三



九作六線

五のん





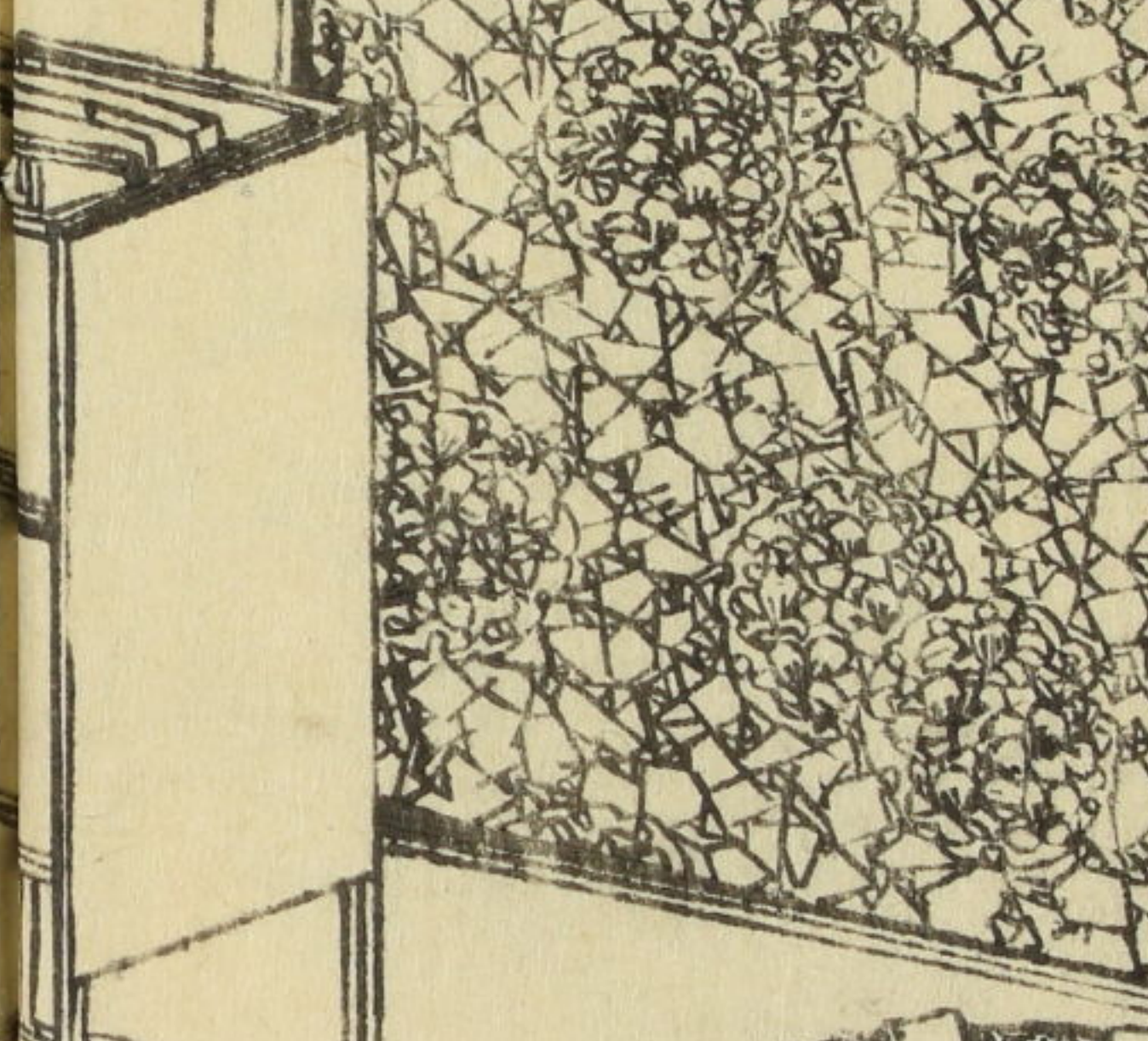
八代傳六終

四

ついでにそのまゝに（木下）あつた
天衣のうらやまはあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた



あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた



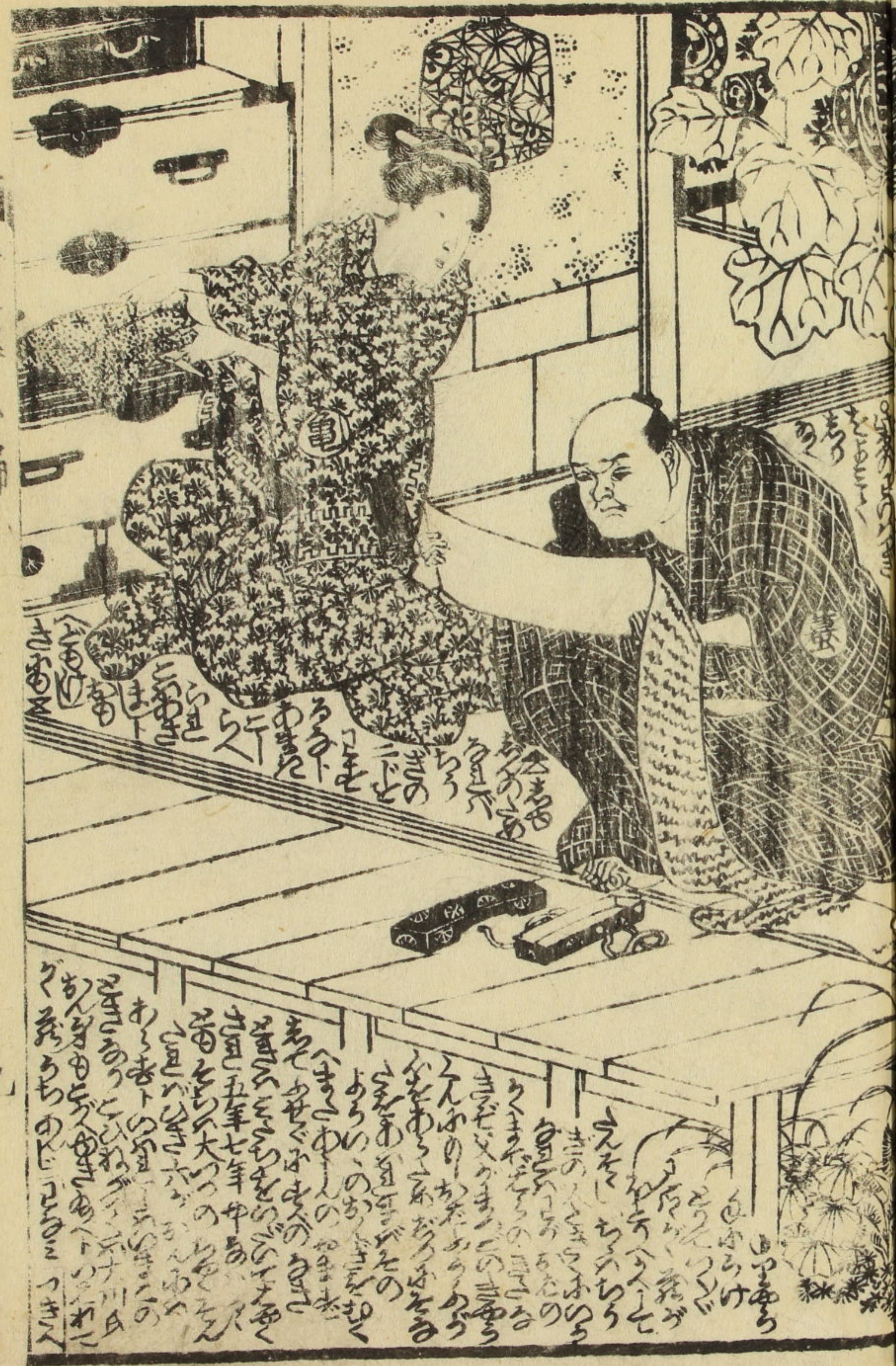
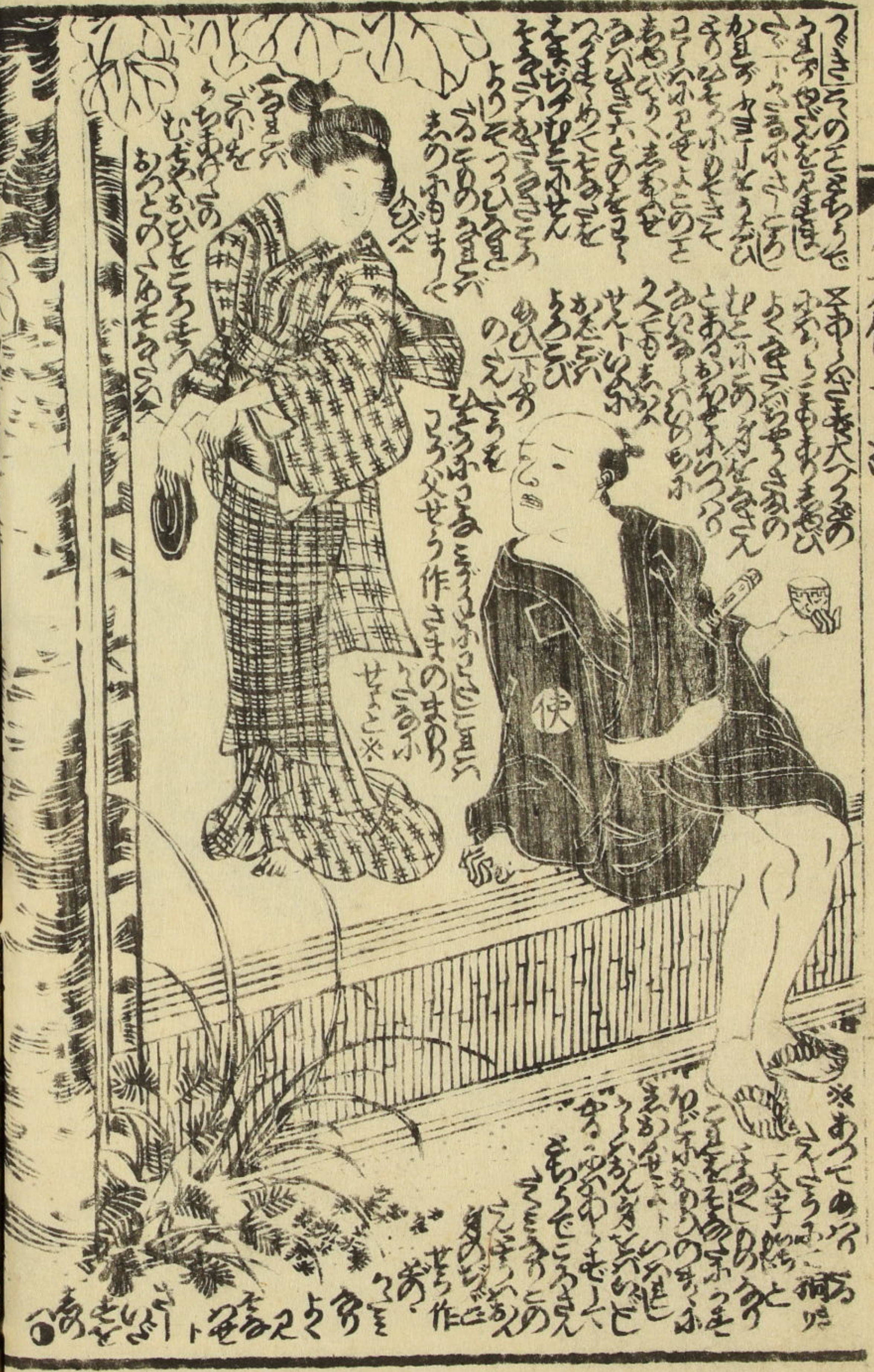
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

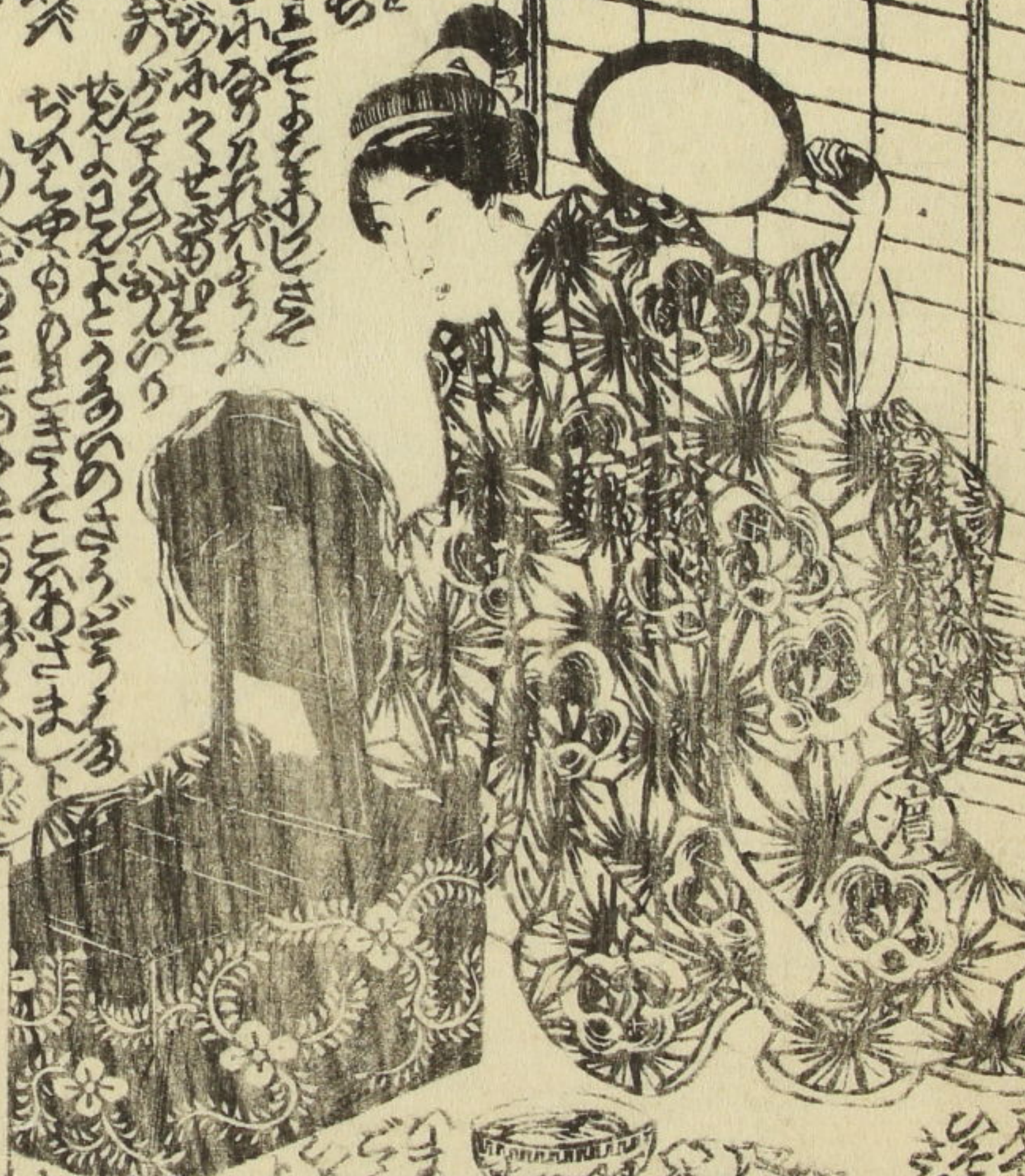




Vertical text on the left margin of the left page.

Vertical text on the left margin of the right page.

國芳画



Vertical text columns at the top of the right page, likely a preface or commentary.

Vertical text columns at the bottom of the right page, likely a signature or additional commentary.

七章四郎

吉米

志心譚

四五編
四十六編
四十七編

柳亭種彦作
一惠齋書幾重

大傳

廿八編
廿九編
三十編

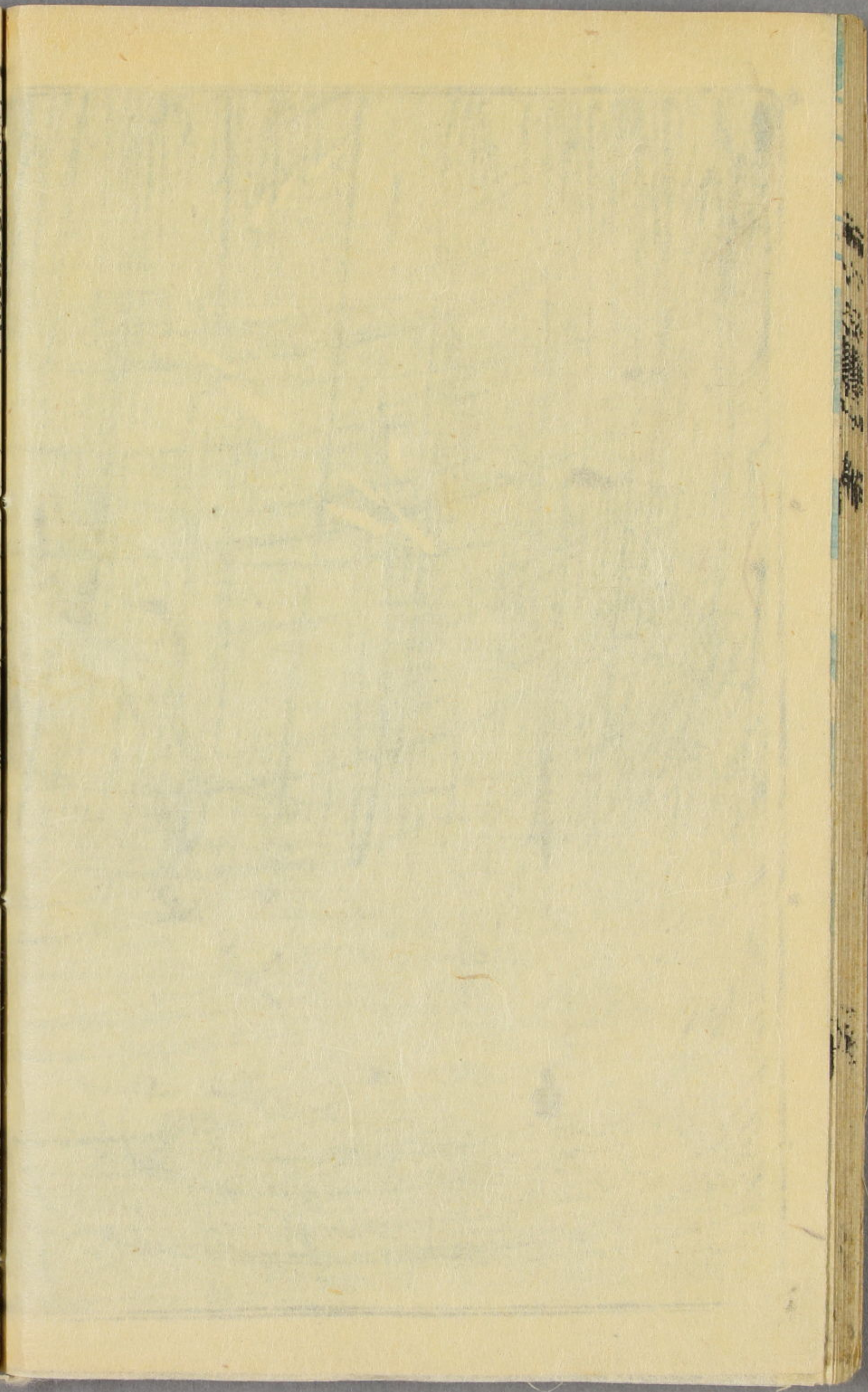
假名垣魯文錄
朝霞樓芳幾画

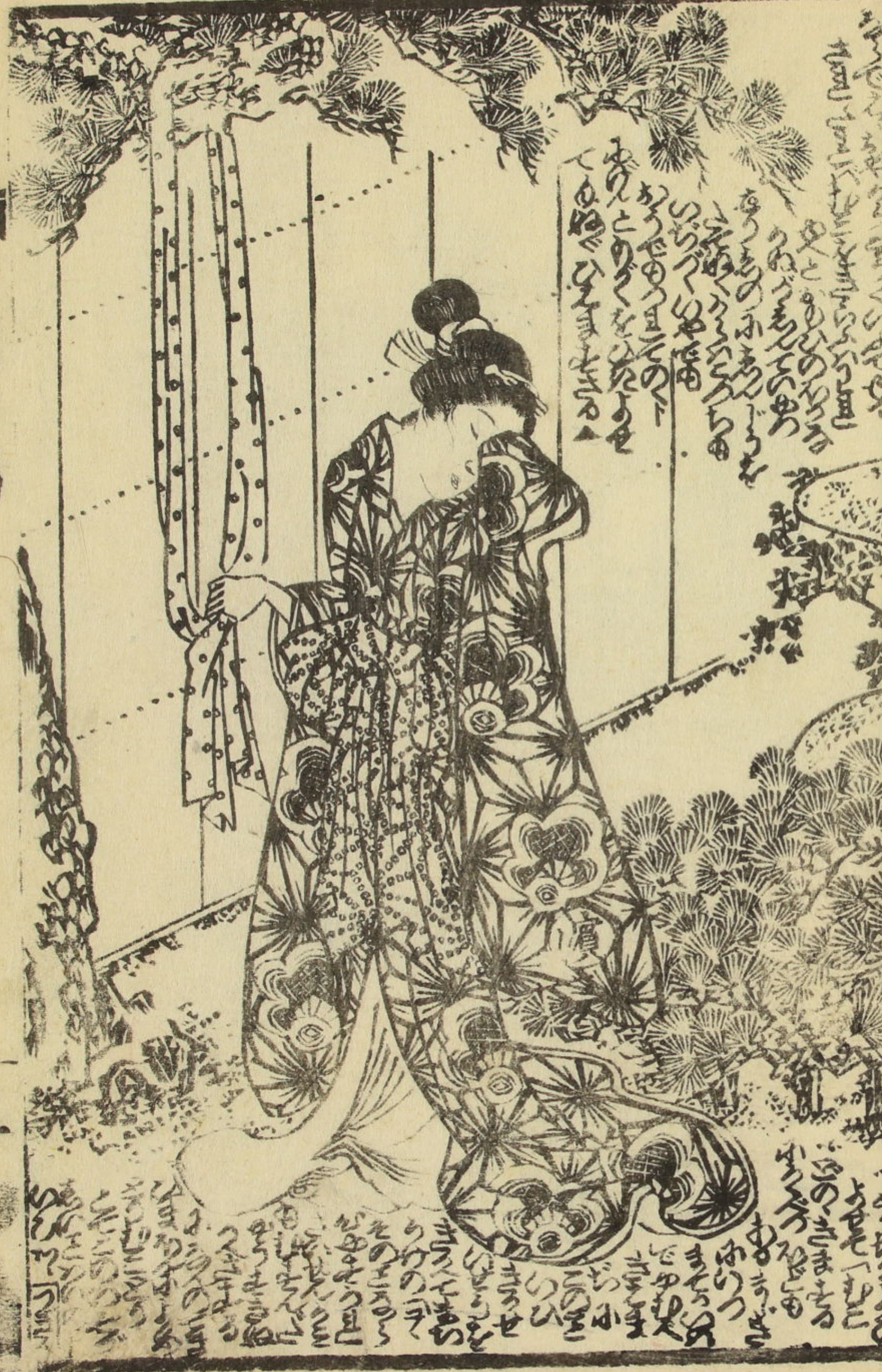
柳春秋色櫻

山意有人作
惠齋書幾重

池本草紙問屋深川佐賀町廣岡屋幸助版







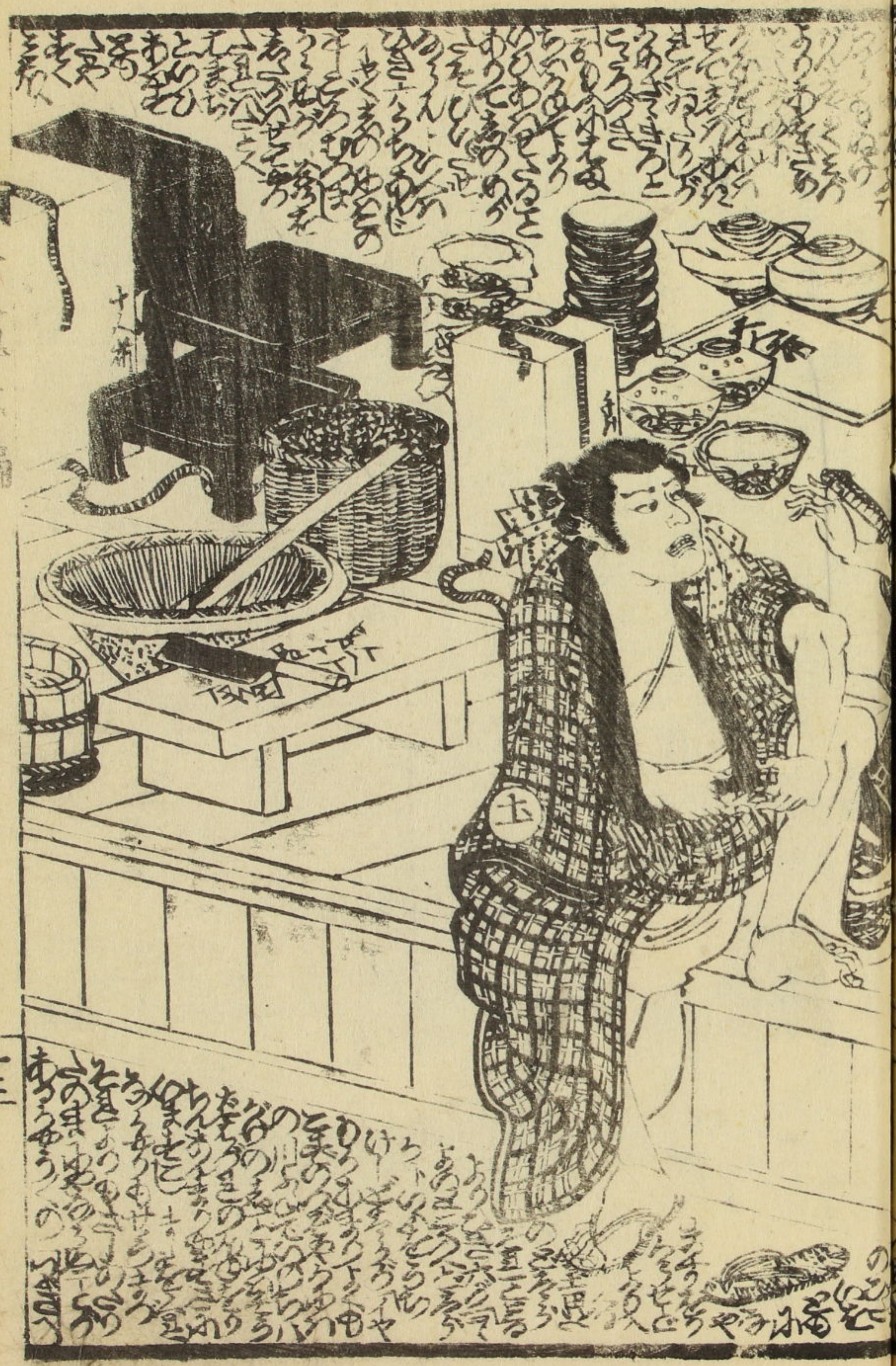
あつたてのうしろの
 かげのうしろの
 あつたてのうしろの
 かげのうしろの
 あつたてのうしろの
 かげのうしろの

あつたてのうしろの
 かげのうしろの
 あつたてのうしろの
 かげのうしろの
 あつたてのうしろの
 かげのうしろの



あつたてのうしろの
 かげのうしろの
 あつたてのうしろの
 かげのうしろの
 あつたてのうしろの
 かげのうしろの

あつたてのうしろの
 かげのうしろの
 あつたてのうしろの
 かげのうしろの
 あつたてのうしろの
 かげのうしろの



世にその小をのう小との小小あわん
 した木小火をうけてそのえをむく入る



人あまのこころを
 この人たのむ小のと木ま
 あると方の痛はあり
 人そのことをうけぬ

その人の
 のをわけて不老の
 のひけ小あ人の
 へさうくひけ
 へさうくひけ
 へさうくひけ

八天集下編

道人有柳樹
 ありて
 ありて
 ありて



その人の
 のをわけて不老の
 のひけ小あ人の
 へさうくひけ
 へさうくひけ
 へさうくひけ

八天集下編



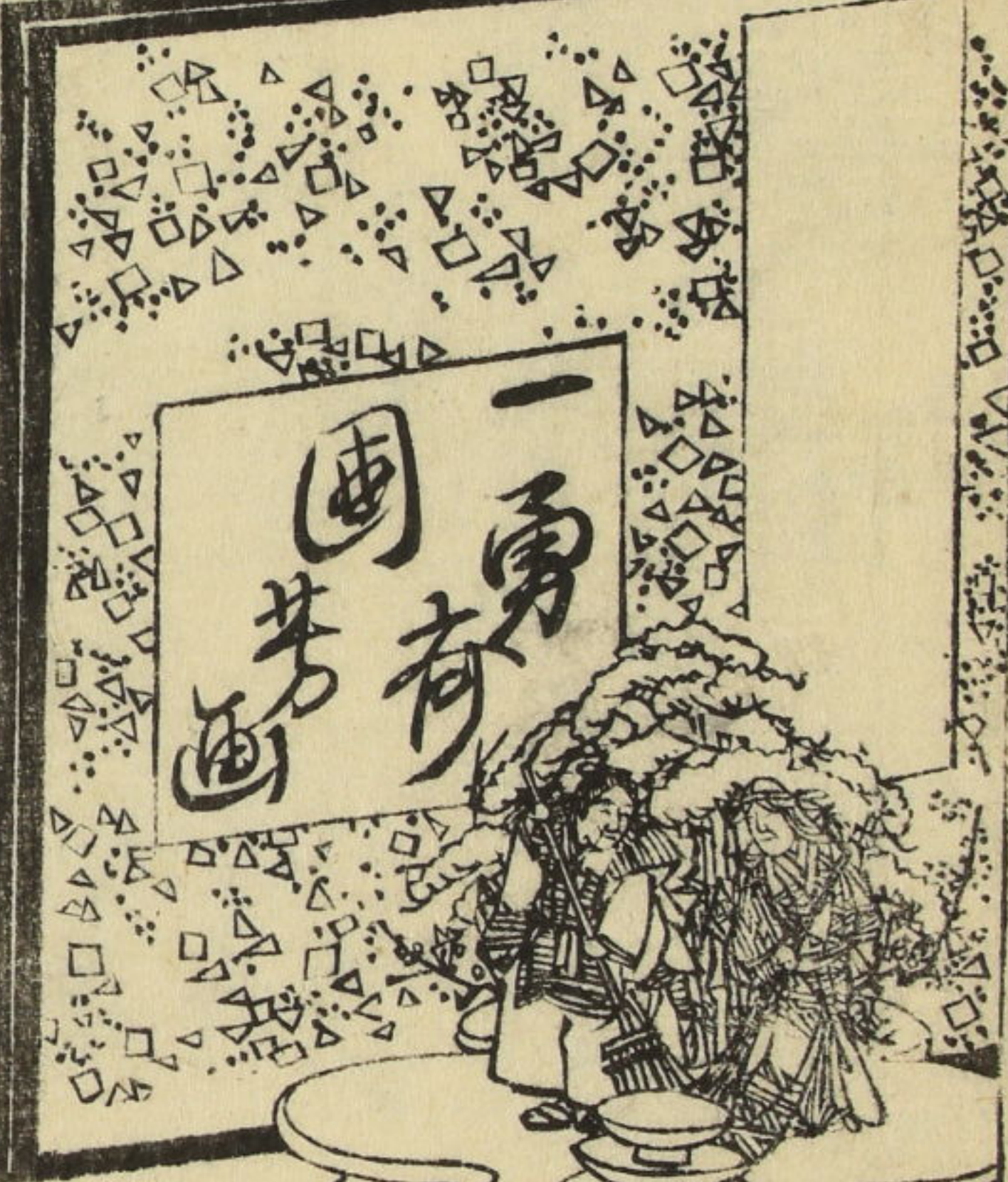


是ハ悪黨網乾左母次郎也或秘藏之



Large blocks of vertical Japanese calligraphy (kuzushiji) covering the lower portion of the left page, providing a narrative or commentary related to the illustration. The text is densely packed and follows the vertical reading direction.

この世の事... 人の心... 世の事... 人の心... 世の事... 人の心...



この世の事... 人の心... 世の事... 人の心... 世の事... 人の心... 世の事... 人の心...

假名讀ハ大士傳

自初編

至二十七編

世の事... 人の心... 世の事... 人の心... 世の事... 人の心... 世の事... 人の心... 世の事... 人の心...

元治元年...

...

